

健やかでやさしい 松前町をつくる

地域福祉の充実

臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金を、国の方針に基づき、昨年度に引き続いて給付します。

●臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金 6,309 万円

障がい者支援の充実

ヘルパーの派遣、移動支援や就労に向けた訓練の支援を行うなどして、障がい者や障がい児が自立し、社会参加して快適に地域で生活できるようにします。

平成 29 年に愛媛県で行われる全国障がい者スポーツ大会への準備を進めます。

●自立支援給付等事業 4 億 2,845 万円
●地域生活支援事業 1,507 万円
●全国障がい者スポーツ大会 16 万円

PICK UP 子育て支援関係



明比圭子さん
佳奈ちゃん
咲希ちゃん

サークルなど、もっと親同士が 交流できる機会があれば

県外から引っ越してきたばかりです。上の子どもは 3 歳ですが、その年代の子どもたち同士がふれあうことのできる機会が、今よりも多くあればいいと思います。そうすれば、親同士の友達もできやすいし、子育てについての情報も聞きやすくなるかなと思います。

放課後児童クラブについては、次のような取り組みを順次行って、クラブを充実させていきます。

(松前校区) 待機児童を解消するため定員を 60 人から 100 人に拡大し、学校内の 2 クラスを使って児童を受け入れます。

(北伊予校区) 現在、学校の教室内で行っている児童クラブの施設を新たに設けるため、整備に着手していきます。

●放課後児童健全育成(放課後児童クラブ) 2,753 万円
●放課後児童健全育成施設整備 399 万円

高齢者支援の充実

介護保険制度を円滑に運営して高齢者の皆さんの生活を維持・継続していくため、特別会計へ繰出金を支出します。

●介護保険特別会計繰出金 4 億 3,818 万円

健康づくりの推進

総合健診や予防接種事業を行って町民の皆さんの健康増進に努めるほか、特定不妊治療を受けている人の治療費の一部助成も行います。

●総合健診 3,590 万円
●がん検診推進 516 万円
●母子健康診査 2,762 万円
●予防接種 8,503 万円



平成 27 年度町政方針 松前町の取り組みと お金の使い道

町政方針は、この 1 年の町の進むべき指針を示すものです。その指針の実現のため、皆さんからの税金も使って、各事業に取り組んでいきます。みんなで理解して、声を反映させて、よりよい町をつくっていきましょう。今回は、総合計画の 6 つの柱に沿ってお知らせします。



安全・安心・快適な 松前町をつくる

消防・防災の充実

水害への対応のため水位計の更新を行うほか、河川監視カメラを設置して危険箇所を重点的に確認します。

老朽化が進む第 4 分団(徳丸・中川原・出作)の消防詰所を集約して新たに整備するほか、消防団設備を充実強化して地域防災力を高めます。

●防災 2,515 万円
●消防詰所建設 2,302 万円

環境・景観の保全と創造

住宅用太陽光発電システム設置に対して、県の補助事業は終了するものの、支援を継続して地球温暖化防止に努めます(助成額は減額)。

●新エネルギー等推進支援 1,389 万円

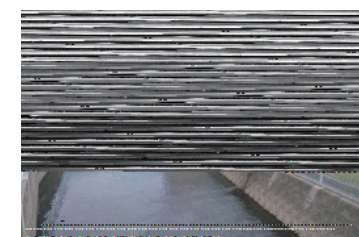
その他

公共水域の水質汚濁を防ぎ、環境を保全して公衆衛生を向上させるため浄化槽設置を補助します(P 28)。その他、ごみの減量化とリサイクルを進めるほか、公共スポーツ施設インターネット予約システムを更新し、松前公園利用者の利便性と利用率を向上させます。

●廃棄物収集運搬処理 2 億 1,972 万円
●浄化槽設置整備 3,396 万円
●社会体育一般管理 1,105 万円

PICK UP 水害への対応

高潮、内水氾濫対策で潮位を確認するため設置している夫婦水門の水位計を新しくし、水門の開閉を適正に行って被害防止に努めます。河川監視カメラは、上流の水量、水位の確認のために長尾谷川沿いに設置を予定しています。これにより、水害発生の恐れがあるときは、水量、水位などの情報をリアルタイムで収集して、素早く対応できるようにします。



役場で水量・水位確認



上高柳 自主防災委員長
井上憲二さん

各地区の課題を集約し まちの実情に応じた防災対策を

地域では、自主防災会だよりを作るなどして、防災意識を少しでも高めていきたいと思っています。

町全体では、各地区での課題を出し合って、連携して対応できるように、町独自の防災対策がもっと進んでいけばいいと思います。

みんなで力を出し合う 松前町をつくる

コミュニティの育成

地域の皆さんが利用する集会所や広場などのコミュニティ施設の整備費用を助成し、地域の生活福祉の維持向上を図ります。

計画的な自治体経営の推進

公共施設などの配置状況など全体を把握し、更新・統廃合・長寿命化を計画的に行うことで、財政負担を軽減・平準化し、時代に即したまちづくりを推進するため、公共施設等総合管理計画を策定します。

●コミュニティ対策	325 万円
●公共施設等総合管理計画	681 万円

PICK UP コミュニティ対策事業



地域の皆さんが多目的に利用する集会所、広場、駐輪場などを整備する事業について、「コミュニティ施設整備事業補助金」を交付しています。この補助金では、地域の皆さんがより快適に身近な施設を利用できるように、建物の補修や撤去をはじめ、遊具や合併浄化槽の設置などの整備を対象にして、助成を行っています。

本年度は、宗意原、出作、鶴吉、横田、大溝、上高柳、昌農内、西古泉、南黒田の9地区に対して補助金を交付する予定です。

飛躍を支える松前町の 基盤をつくる

市街地の整備

敷地の寄付を受けて町が老朽放置建物を除去することで、住環境の改善を図ります（P 29）。

住宅施策の推進

木造住宅の耐震化を促進するため、耐震診断、設計と耐震改修の費用の一部を助成します（P 29）。

道路・交通網の充実

コミュニティバスや鉄道施設の老朽化対策の助成を行い、利便性を向上させます。老朽化している町道を補修し、道路環境を改善して交通の安全を確保します。

情報化の推進

28年1月から始まる「社会保障・税番号制度」の効率的なシステムの構築を継続して進めます。

●住環境改善	2,570 万円
●木造住宅耐震化促進	1,100 万円
●コミュニティバス運行支援	986 万円
●鉄道安全輸送設備整備費支援	288 万円
●一般町道等整備（町単）	2,000 万円
●社会保障・税番号制度システム構築	3,597 万円

PICK UP 一般町道等整備事業



一般町道等整備事業では、皆さんが安全で快適に道路を通行できるように、道路環境を改善するとともに、交通体系の確立して、スムーズな車の流れが確保できるようにしています。

本年度は、町道西70号線の歩道の段差解消工事をを行います。この町道は、松前中学校の東側を通り、道沿いには北黒田郵便局もある、交通量が多い道路です。歩道の段差を解消することで、通学する子どもたちをはじめ、皆さんが安全で快適に道を通行できるようにします。

豊かでにぎわいのある 松前町をつくる

農水産業の振興

農業従事者の労力の軽減や経費の削減を図るため、各種土地改良事業を実施し、農業経営の安定に向けた取り組みを支援します。さらに、就農前後の青年新規就農者の農業経営を安定させるため、給付金を交付します。

安全性・生産性の向上を図るため、老朽化した船揚場などの漁業施設を計画的に改修します。

商工業の振興

町内産業を発展させるため、農業、漁業と商工業関係者が連携して県内外で地場産品をPRするほか、町内で「たわわ祭」を開催します。

●新規就農総合支援	112 万円
●経営体育成支援	368 万円
●土地改良（県単、町単）	2,680 万円
●水産業振興育成対策	127 万円
●商工振興育成対策	758 万円
●地場産業推進	894 万円

PICK UP 水産業振興育成対策事業



水産業をめぐる環境は、担い手の減少や高齢化など厳しい状況が続いています。そこで、松前町漁業協同組合と連携して、水産物の安全で安定した供給を図るとともに、水産業の振興のために助成を行います。

本年度は、老朽化している船揚場などの台車の改修を行う予定です。

人と文化が輝く 松前町をつくる

学校教育の充実

障がいなどで学校生活への適応が難しい子どもが、生活に適応して楽しく過ごせるように支援員を増員するほか、各教育施設で必要な修繕工事をします。

生涯学習の推進

西・北公民館の耐震診断を行うほか、教育の町宣言50周年を記念し、松前町誌編さんの準備を行います。

スポーツの振興

えひめ国体松前町実行委員会と連携して、競技会の準備を進めるほか、ホッケー場の整備を進めます。

文化芸術の振興

文化祭のバザーは「たわわ祭」に移行し、作品展示会や芸能発表会を通して文化の町づくりを行います。

●学校生活支援員	2,066 万円
●小・中学校修繕関係	2,494 万円
●公民館耐震化	181 万円
●町誌編纂（さん）	29 万円
●えひめ国体施設整備	3 億 5,313 万円
●まさき文化祭	187 万円

PICK UP 学校生活支援員関連事業



学校生活支援員は、幼稚園や小中学校で、身体に障がいがあって介助が必要な子どもや、学習障がい（LD）や発達障がいなどで授業中に個別の支援が必要な子どもに寄り添い支援を行います。

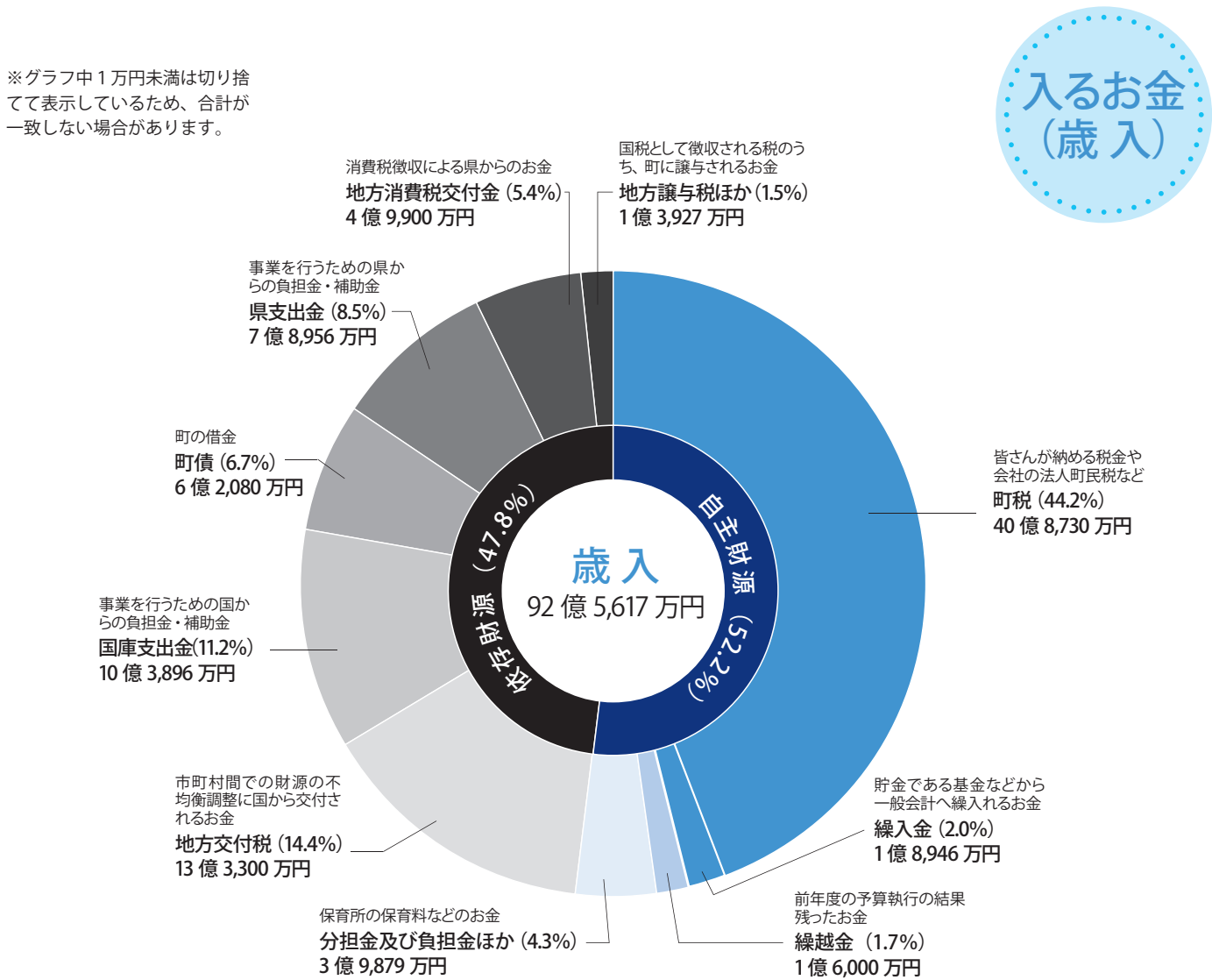
27年度は、24人の学校支援員を各町立幼稚園、小中学校に配置する予定です。増員を行うことで、支援を必要とする子どもたちに対し、より柔軟できめ細やかな支援を行って、子どもたちが学校生活に適応し、安心安全に楽しく通園・通学ができるようにしていきます。

平成 27 年度予算規模

(単位：千円、%)

	27 年度	26 年度	増減率
一般会計 (町の運営の基本的な経費を一つにまとめた会計)	9,256,171	8,977,816	3.1
国民健康保険特別会計 (国民健康保険の保険給付などを取扱う会計)	3,898,490	3,443,138	13.2
後期高齢者医療特別会計 (後期高齢者医療の保険給付などを取扱う会計)	403,258	391,411	3.0
介護保険特別会計 (介護予防や介護に関するサービスを取扱う会計)	2,769,125	2,656,113	4.3
公共下水道事業特別会計 (下水管や処理施設の整備費用を取扱う会計)	653,284	572,225	14.2
特別会計 合計	7,724,157	7,062,887	9.4
水道事業会計 (企業会計) (安全でおいしい水を供給するための費用を取扱う会計)	715,809	611,181	17.1
総 額	17,696,137	16,651,884	6.3

※グラフ中 1 万円未満は切り捨てて表示しているため、合計が一致しない場合があります。



もっと詳しく

◎用語の解説

自主財源 町が自主的に収入できるお金

依存財源 国や県から交付されるお金や借金

Point

自主財源が多いほど町の運営は安定し、独自性を保つことができる。本年度は前年度に比べ、自主財源の金額は増加しているが、全体に占める割合は 0.9%減少しており、厳しい財政運営となっている。

◎ 26 年度との比較

町税 緩やかな景気回復の継続による、法人住民税の増収、新築家屋の増加で固定資産税の増収も見込まれる。

国庫支出金・県支出金 子ども子育て支援新制度や国体施設整備事業の実施に伴い増加している。

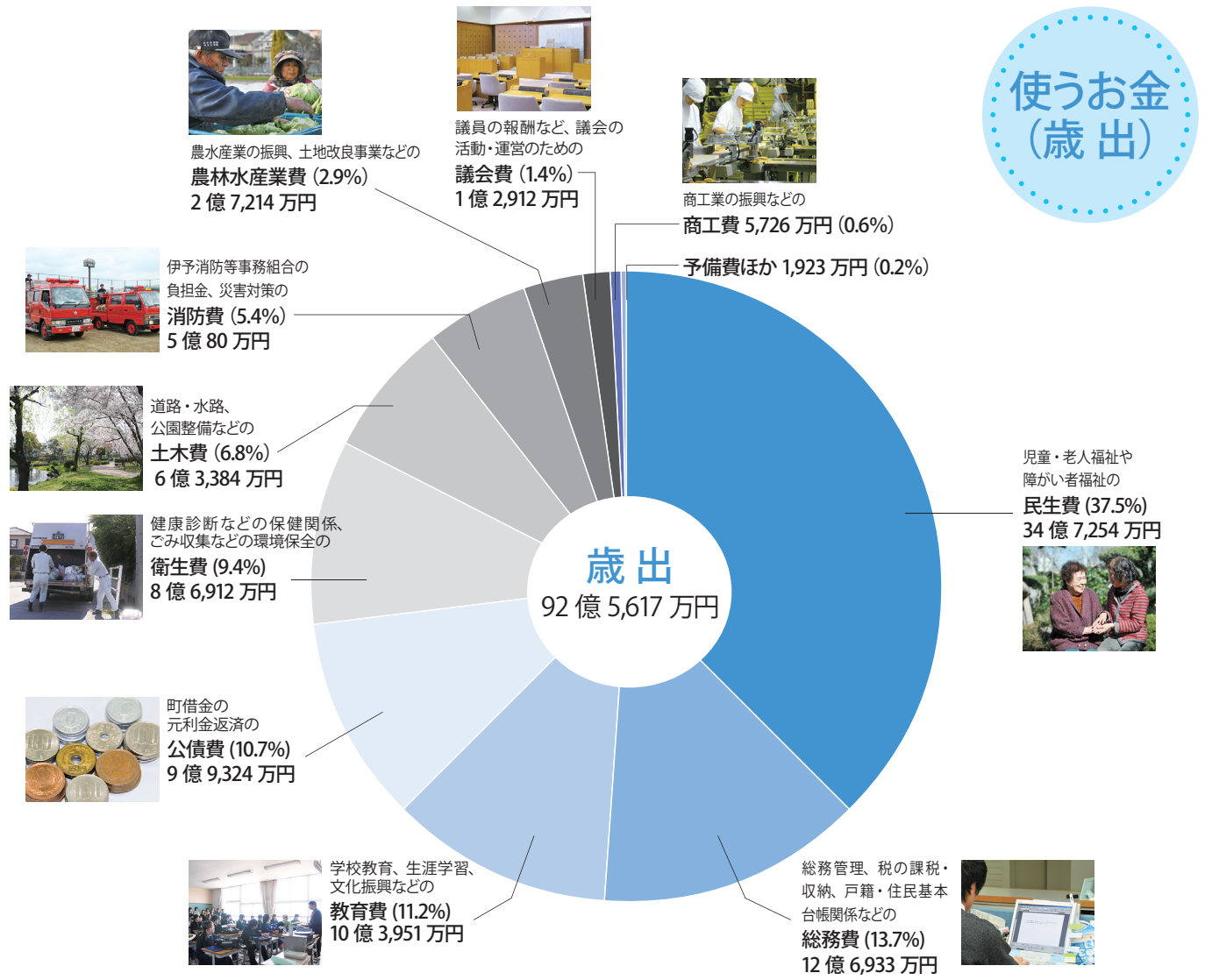
その他 地方消費税の引き上げで地方消費税交付金の額は増えたが、普通交付税の減額が見込まれる。また、財源不足に対応するため、財政調整基金から 1 億 5,000 万円繰入れ。

以上、6 つの柱を中心にした平成 27 年度の一般会計当初予算は

92 億 5,617 万円 (前年比 3.1% 増)

予算とは、使うお金 (歳出) と入るお金 (歳入) をいいます。

ここでは、約 92 億円のお金をどの分野にどのくらい使うのか、また、その収入をどのように見込んでいるかを紹介します。



もっと詳しく (26 年度との比較)

民生費



子ども子育て支援新制度の開始や、特別会計 (国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療)への繰入金が増えたため。

総務費



町制 60 周年記念イベント、国勢調査の実施や社会保障・税番号制度システム構築など、前年度にない事業が増えたため。

教育費



国体施設整備を行うため。北伊予中学校の耐震化事業については終了。

公債費



総合福祉センター建設などにかかる地方債の償還が終わったため。